

筑波技術大学保健科学部附属東西医学統合医療センター (旧：筑波技術短期大学附属診療所) 活動報告

1. 組織 (2006年2月現在)

専任職員

所長 教授	青柳 一正 (漢方, 内科)
助教授	津嘉山 洋 (鍼灸)
助手	山下 仁 (鍼灸)
看護部	菊池 典子 (師長)
	根本 由紀子
薬剤部	金子 鶴子
臨床検査部	木村 里美
放射線部	水木 知恵
医事係	瀬尾 栄一 (専門職員)
	鈴木 文子

併任職員

保健科学部保健学科鍼灸専攻

教授	柴崎 正修 (小児科)
教授	大越 紀明 (神経内科)
教授	形井 秀一 (鍼灸)
教授	森山 朝正 (鍼灸)
教授	坂井 友実 (鍼灸)
教授	野口 栄太郎 (鍼灸)
教授	森 英俊 (鍼灸)
教授	和久田 哲司 (鍼灸)
助教授	佐々木 健 (鍼灸)
助教授	藤井 亮輔 (鍼灸)
助手	木村 友昭 (鍼灸)
助手	殿山 希 (鍼灸)
技官	市川 あゆみ (鍼灸)

保健科学部保健学科理学療法専攻

教授	木下 裕光 (整形外科)
教授	吉田 次男 (放射線科)

保健管理センター

教授	深間内 文彦 (心療内科)
教授	市川 忠彦 (精神科)

非常勤職員

看護部	根岸 淳子
臨床検査部	古澤 敏子
	望月 雅子
鍼灸部	
受付	菊地 良子
	作間 千鶴子
鍼灸師	堀 紀子
	岩間 かおる
	中島 千恵

附属診療所研修生 23名

鍼灸学科アドバンスコース 3名

2. 概要

開設後14年を経過し、漢方・鍼灸・西洋医学を統合した新しい医療というコンセプトを模索している。平成17年度秋から、四年制の筑波技術大学保健科学部附属のセンターとして活動を継続している。

地域への医療サービスの提供とともに、鍼灸学科学生の臨床実習の場として機能している。また、鍼灸師の卒後臨床研修を行う制度として、平成5年度から研修生の制度が発足している。その他、日本東洋医学会の専門医のための研修施設として医師の研修を受け入れている。

今後はより良い医療サービスの提供と充実した教育・研究活動のために、ソフト面を充実することが課題となっている。2002年6月26日には診療所内に教職員、学生の作品を展示するギャラリーがオープンし患者に好評である。

また、臨床・研究活動の他に保健学科鍼灸専攻との共同企画で公開講座を実施している。

- 1) 「家庭でできる鍼灸・手技療法」: 一般市民を対象に講義と実習を含めて行った。
- 2) 「鍼灸・手技の臨床実技講座」: 鍼灸師を対象に実技を中心に行った。
- 3) 「医師のための鍼灸実践講座」: 医師を対象に講義と実技を含めて行った。

3. 研究業績 (主に専任教員のもの)

著書

- 1) 青柳一正: 腎疾患治療薬開発の最新情報: 抗酸化薬 pp287-291 先端医療シリーズ31 腎臓病 先端医療技術研究所
- 2) 青柳一正: 高血圧に関連する最新情報 NO 569-572, 知っておくべき高血圧の知識 2004-2005, 東京医学社
- 3) 青柳一正: ネフローゼ症候群の全て: 病態把握のための検査 149-152, 腎と透析 59, 2005
- 4) 清水芳雄, 青柳一正: ネフローゼ症候群の全て: 病態把握のための検査: 凝固検査, 159-163, 腎と透析 59, 2005.
- 5) 山下仁: 現代鍼灸臨床試論 国家試験に出題されない必修科目!?, 桜雲会出版部, 2005.
- 6) 山下仁, 津嘉山洋: 統合医療の統計, 統合医療 基礎と臨床, 日本統合医療学会, 20-26, 2005.

原 著

- 1) Yokozawa T, Cho EJ, Rhyu DY, Shibahara N, Aoyagi K. Glycyrrhizae Radix attenuates peroxynitrite-induced renal oxidative damage through inhibition of protein nitration. *Free Radic Res.* 2005 Feb;39(2):203-11.
- 2) Motoo Osaka, Kazumasa Aoyagi, Akiko Hirakawa, Motoo Nakajima, Tomoaki Jikuya, Osamu Shigeta, Yuzuru Sakakibara. Comparison of Hydroxyl Radical Generation in Patients Undergoing Coronary Artery Bypass Grafting with and without Cardiopulmonary Bypass. *Free Radical Research* 2006 Feb;40(2):127-33.
- 3) Halling KB, Ellison GW, Armstrong D, Aoyagi K, Detrisac CJ, Graham JP, NewellISP, Martin FG, Van Gilder JM.: Evaluation of oxidative stress markers for the early diagnosis of allograft rejection in feline renal allotransplant recipients with normal renal function. *Can Vet J.* 2004 Oct;45(10):831-7.
- 4) Furlan AD, Tulder M, Cherkin D, Tsukayama H, Lao L, Koes B, Berman B. Acupuncture and dry-needling for low back pain: an updated systematic review within the framework of the cochrane collaboration. *Spine* 2005; 30(8):944-63.
- 5) 藤井亮輔, 山下仁, 岩本光弘: あん摩業、はり業、きゅう業に係る施術所数ならびに就業者数の実態に関する調査研究 - 平成 17 年衛生行政報告例隔年第 63 表及び第 64 表の検証 -, 全日本鍼灸学会雑誌, 55(4), 566-573, 2005.
- 6) Nozomi DONOYAMA, Shinichi SHOJI, Tsunetsugu MUNAKATA: "Effects of Anma Therapy(Traditional Japanese Massage) on Body and Mind: A Preliminary Study", *Journal of Japanese Association of Physical Medicine, Balneology and Climatology*, Vol.68, No.4, pp.241-247 (2005).
- 7) 殿山希, 宗像恒次: "視覚障害を有するマッサージ師のメンタルヘルスの概要", *理療教育研究*, Vol.27, No.1, pp.65-79 (2005)
- 8) Nozomi DONOYAMA, Tetsuji WAKUDA, Tadashi TANITSU, Yoshitoshi ICHIMAN: "Using tea tree oil for hygienic massage practice", *International Journal of Aromatherapy*, Vol.15, pp.106-109 (2005)

総説・解説

- 1) 山下仁, 津嘉山洋: 国際化した東洋の伝統医

学「鍼灸」のエビデンス, 治療, 増刊号 Vol. 87, 867-869, 2005.

- 2) 山下仁, 津嘉山洋: 灸の煙の安全性, *日本医事新報*, 4224, 99-100, 2005.
- 3) 山下仁, 津嘉山洋: 腰椎椎間板ヘルニアに対する鍼治療とその臨床研究の現状, *医道の日本*, 64(7), 36-41, 2005.
- 4) 山下仁: 世界の文献紹介 変形性膝関節症に対する鍼治療効果の検証, *全日本鍼灸学会雑誌*, 55(4), 631-632, 2005.
- 5) 津嘉山洋, 山下仁: 補完代替医療における市場の混乱と利益相反, *臨床評価*, 32(2・3), 491-503, 2005.
- 6) 山下仁: 鍼灸の安全性に関する議論の現状と課題, *現代鍼灸学*, 5(1), 7-10, 2005.

その他の論文など

- 1) 青柳一正: 編集後記特集クリニカルパス、752, 腎と透析 59, 2005
- 2) 青柳一正: 平成 15 年度～平成 16 年度科学研究費補助金(基盤研究(c)(2))研究成果報告書: 遺伝子発現プロファイルによる多成分からなる和漢薬の薬効評価法の開発 課題番号 15590609
- 3) 青柳一正: 医者がすすめる専門病院 ライフ企画 東洋医学 450 ページ
- 4) 山下仁, 鍼灸技術のエビデンス(6)慢性頸部痛の鍼刺激法, *鍼灸の世界(桜雲会)*, 84, 23-35, 2005.
- 5) 山下仁: 第 1 回 WHO 伝統医学用語標準化のための非公式会議(口絵), *医道の日本*, 63(12), 2004.
- 6) 山下仁: 現代医療としての鍼灸臨床(追補 1) 個人情報保護, *鍼灸の世界(桜雲会)*, 85, 33-43, 2005.
- 7) 山下仁: 鍼灸技術のエビデンス(7)鎮痛のための通電刺激法, *鍼灸の世界(桜雲会)*, 86, 109-118, 2005.
- 8) 山下仁, 川喜田健司, 若山育郎: WHO 鍼の臨床研究ガイドライン改訂会議(口絵), *医道の日本*, 64(10), 4, 2005.
- 9) 山下仁: 鍼灸技術のエビデンス(8)トリガーポイント刺鍼, *鍼灸の世界(桜雲会)*, 87, 101-111, 2005
- 10) 東郷俊宏, 津谷喜一郎, 津嘉山洋, 黒須幸男: ゴールドコーストでの第 6 回 WFA 世界学術大会報告. *全日本鍼灸学会雑誌*, 55(1): 86-95, 2005
- 11) 津嘉山洋: 鍼の異質性: 1970 年以降の西洋医学コミュニティの鍼灸受容のプロセス - 鍼は

ブラシーボか。Open Forum 1:23-31, 2005.

- 12) 津嘉山洋, 東郷俊宏: WHO 西太平洋事務局「第一回伝統医学の情報標準化に関する非公式協議」参加報告。全日本鍼灸学会雑誌, 55: 621-30, 2005.

学会発表

- 1) 青柳一正, 平川暁子, 大坂基男, 中島基夫, 藤森憲: STZ 誘発糖尿病ラットにおけるハイドロキシラジカル産生量の経時変化 第 26 回グアニジノ化合物研究会 平成 17 年 10 月 15 日 東京
- 2) 平川暁子, 中島基夫, 大坂基男, 藤森憲, 青柳一正: FI-ESR による注射用鉄剤の・OH 産生能および消去能の検討: 第 17 回腎とフリーラジカル研究会 2005 年 9 月 17 日岡山コンベンションセンター
- 3) 青柳一正: 教育講演 腎とフリーラジカル 20 年の歩み, 日本腎臓学会総会, 6 月
- 4) 青柳一正: 特別講演新しい生体の活性酸素マーカー: グアニジノ化合物による活性酸素産生機構の研究 第 9 回 大分麻酔研究会 大分 8 月
- 5) 富山医科薬科大学和漢薬研究所 講演 糖尿病性腎症の発症機構 2005, 9 月 14 日
- 6) 平川暁子, 中島基夫, 大坂基男, 藤森憲, 青柳一正: フローインジェクション ESR を用いた機能性食品のヒドロキシラジカル消去能のモニタリング 第 27 回日本フリーラジカル学会(岡山)
- 7) 青柳一正, 平川暁子, 大坂基男, 中島基夫, 藤森憲: STZ 誘発糖尿病ラットにおけるハイドロキシラジカル産生量の経時変化, 第 17 回糖尿病性腎症研究会, 12 月 3 日東京
- 8) Yamashita H: Some suggestions for acupuncture clinical trials - Control group setting, individualized outcome measure, and adverse event reporting -, Meeting on the Revision of the Guidelines for Clinical Research on Acupuncture, Seoul, Korea, Aug 24-26, 2005.
- 9) Yamashita H, Tsukayama H, Aoyagi K: Acupuncture patients in Japan: a nationwide telephone survey in 2005, The 13th International Congress of Oriental Medicine, Daegu, Korea, Oct 20-23, 2005.
- 10) Tsukayama H, Yamashita H, Kimura T, Miyamoto T, Aoyagi K: Needle sensation in acupuncture naive Japanese subjects, The 13th International Congress of Oriental Medicine, Daegu, Korea, Oct 20-23, 2005.
- 11) Hori N, Tsukayama H, Yamashita H, Aoyagi K: Thirteen years' clinical activity on acupuncture in a national college clinic in Japan, The 13th International Congress of Oriental Medicine, Daegu, Korea, Oct 20-23, 2005.
- 12) Yamashita H, Hori N, Kimura T, Tsukayama H: Safety of Japanese Acupuncture, WFAS International Symposium of Acupuncture, Lisboa, Portugal, Nov 4-6, 2005.
- 13) Tsukayama H, Yamashita H, Kimura T: Can retractable type sham acupuncture be visually distinguished from genuine acupuncture?, WFAS International Symposium of Acupuncture, Lisboa, Portugal, 11.4-6, 2005.
- 14) 山下仁: 腰椎椎間板ヘルニアに対する鍼治療 - 文献から見たエビデンスの考察 -, 第 21 回現代医療鍼灸臨床研究会, 4 月 29 日, 2005 .
- 15) 山下仁: 鍼灸の安全性に関する研究 - 刺鍼によって発生する副作用のデータのメタ分析 -, 平成 16 年度教育研究等高度化推進事業報告会, 6 月 1 日, 2005 .
- 16) 山下仁, 津嘉山洋: 鍼による気分不良(暈鍼) インシデントレポートの集積データより, 第 54 回全日本鍼灸学会学術大会 6 月 11 日 2005 .
- 17) 津嘉山洋, 山下仁: 鍼臨床試験における " Placebo " 対照群の実態 システムティック・レビュー, 第 54 回全日本鍼灸学会学術大会, 6 月 11 日, 2005 .
- 18) カサノヴァ・エマヌエラ, 山下仁, 津嘉山洋, 木村友昭, 吉田紀明, 江藤文夫: 脳卒中後遺症患者の上肢痙縮に対する鍼通電刺激の短期的効果 - N of 1 偽鍼対照比較試験 -, 第 54 回全日本鍼灸学会学術大会, 6 月 11 日, 2005 .
- 19) 山下仁: 鍼灸安全性に関する既存のエビデンス(2) 鍼の品質と強度, 第 54 回全日本鍼灸学会学術大会, 6 月 10 日, 2005 .
- 20) Yamashita H: Introduction to the Committee for Safe Acupuncture, JSAM, 第 54 回全日本鍼灸学会学術大会, 6 月 11 日, 2005 .
- 21) 山下仁: N of 1 trial の可能性と問題点, 第 14 回東洋医学総合研究会, 8 月 6 日, 2005 .
- 22) 津嘉山洋: Opening remarks " ポスト RCT の模索?", 第 14 回東洋医学総合研究会, 8 月 6 日, 2005 .
- 23) 津嘉山洋: 討論 " 鍼灸における RCT の対照群設定はどうあるべきか?", 第 14 回東洋医学総合研究会, 8 月 7 日, 2005 .
- 24) 山下仁: より公正な統合医療研究を推進するために, 第 9 回日本代替・相補・伝統医療連合会議 第 5 回日本統合医療学会 合同大会,

12月10日, 2005.

- 25) 殿山希:視覚障害を有する鍼灸マッサージ師のメンタルヘルスの状況,鍼灸手技療法教育研究大会, pp.2, 2005.
- 26) 殿山希,宗像恒次:"手技療法(按摩療法)の精神免疫的効果,第70回日本温泉気候物理医学会総会プログラム, 2005.
- 27) 殿山希,一幡良利:手技療法における感染防止に関する検討(第3報)-エッセンシャルオイル使用時の細菌数の変動-,日本東洋医学会雑誌, Vol.56, pp.206, 2005.
- 28) Donoyama N: Current status of massage practitioners with visual impairment in Japan, International Council for Education of People with Visual Impairment East Asia Regional Conference, Book of Abstract, pp21-22, 2005.

講演など

- 1) 山下仁:あはき臨床実習の指導法-鍼灸臨床実習における信頼性のある情報伝達,平成17年度盲学校理療科担当教員講習会,7月20日,2005.
- 2) 山下仁:経穴(ツボ)と灸の話題,第5回自然良能塾 in 四万十市,10月30日,2005.
- 3) 山下仁:鍼灸臨床研究に、今、何がまとめられているのか,全日本鍼灸学会千葉地方会11月定例会,11月13日,2005.

公開講座

- 1) 山下仁:家庭でできる鍼灸・手技療法-灸療法-,筑波技術短期大学公開講座,7月8日,2005.
- 2) 津嘉山洋:医師のための鍼灸実践講座-総論(概観およびエビデンス)筑波技術短期大学公開講座.つくば市春日筑波技術短期大学視覚部,2005年9月4日